

ふくいじょうやまざとぐちごもん
福井城山里口御門復元工事 現地説明会

平成 29 年 8 月 19 日
福井県交通まちづくり課

1. はじめに

県と福井市では、平成 25 年 3 月に「県都デザイン戦略」を策定しました。その中で、福井城址と中央公園などを一体化した「福井城址公園」の整備を掲げています。「福井城址公園」の先行整備の一環として、中央公園と、これまで整備してきた御廊下橋、天守台跡の連続性と一体感を高めるために、山里口御門の復元整備を進めています。



2. 山里口御門の概要

山里口御門は、「廊下橋御門(ろうかばしごもん)」や「天守墓下門(てんしゅだいしたもん)」とも呼ばれ、福井城本丸の西側の入口を守る門です。本丸の西に繋がる西二の丸には江戸初期から松林があり、城内にあってのどかな山里の風趣を味わえる遊興の場であり、山里丸と呼ばれていました。山里口御門はこの山里丸から、本丸への入り口の門として、城の創建当時(1606 年)からつくられました。寛文の大火(1669 年)において、天守閣や櫓とともに焼失しましたが、その後、再建されました。

現在の中央公園の場所に御座所があった春嶽公などの時代には、藩主が、御座所から御廊下橋を渡り、山里口御門をくぐって本丸へ向かったと考えられています。

3. 事業の進捗状況

平成 25 年度は基本設計を実施し、遺構調査や文献調査、類例調査等を基に御門の形態を明らかにしました。

平成 26 年度は、基本設計の成果を基に構造や詳細な仕様などを決める実施設計などを行いました。

平成 26 年 10 月頃から、お堀の一部を堰き止めて工事用仮設ヤードの設置工事を行い、平成 27 年 1 月から 8 月まで、石垣のずれ等を修復するための石垣解体調査を実施しました。埋設配管の移設工事等の後、平成 27 年 12 月頃から平成 28 年 5 月にかけて石垣の積み直しを行いました。

復元建築工事は、平成 28 年 5 月に着手しました。基礎工事から始まり、その後建方工事、素屋根の設置と順次進め、11 月に上棟式を執り行いました。また、11 月から土壁の下地となる小舞作りに着手し、順次、荒壁打ち、斑直し、中塗り、砂漆喰、漆喰と工程を進めています。

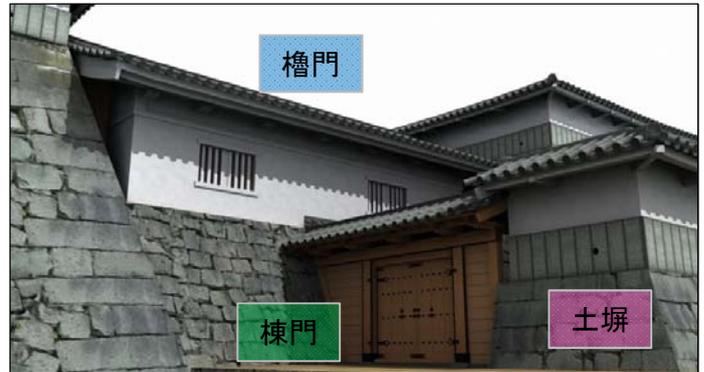
平成 29 年 4 月に櫓門の石瓦葺きが完了し、6 月までに櫓内の床板張りや壁板張りがほぼ完了しています。現在は、櫓門の漆喰塗りや土塀の石瓦葺きを行っています。

■工事概要

棟名称	構造・仕様
櫓門(やぐらもん)	木造2階建て(1階門扉) 仕上(1階;檜・松、2階;内部 檜・松 外壁面白漆喰塗、屋根;檜・杉) 瓦;笏谷石瓦葺(本瓦葺)、延床面積57.11㎡
棟門(むなもん)	木造(門扉) 仕上(柱・梁・壁板;檜、屋根;檜・杉・檜) 瓦;笏谷石瓦葺(本瓦葺)
土塀(どべい)	木造 仕上(主柱・梁;杉の上両面漆喰塗(お堀側は笏谷石腰板張り)、控柱;檜、屋根;杉・檜) 瓦;笏谷石瓦葺(本瓦葺)



完成予想図 1



完成予想図 2

■現場見学・配置図

(1) 天守台側からの工事現場見学所

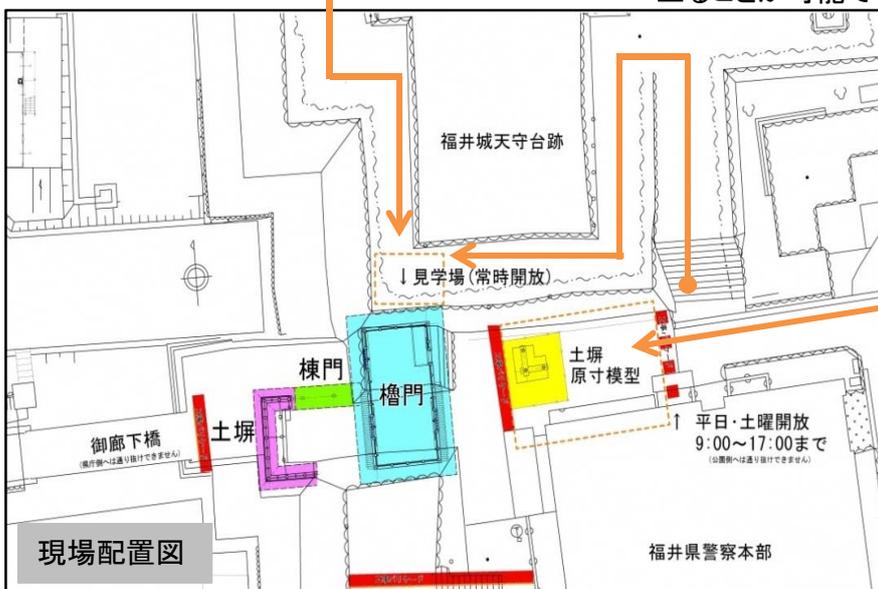


- ・常時見学可能です。
- ・櫓門 屋根工事の様子が見学できます。

(2) 土塀原寸 模型見学所

- ・見学可能時間
9:00~17:00(平日・土曜日)
- ・伝統工法による土塀の構造や石瓦を見学できます。

・奥に緩やかな階段があり上ることが可能です。



■ 施工状況(建築工事の流れ)

1. 準備工事

○着工前 (全景写真)

石垣の積直し完了後、現状の遺構の場所を調査し、柱や梁の位置を検討・測量を行い、工事の計画を立てていきます。



○原寸図 (現寸検査写真)

実物と同じ寸法で書いた図面(原寸図)を基に、詳細が読み取れないところを描いて不明な寸法や各工事の取合いを調整していきます。



○木材の加工 (刻み・仮組状況)

墨付けをする際、まず木の狂いやねじれがないか確かめます。墨付けが完了した部材の継手や仕口を手作業にて加工する作業です。大工さんが木材を一本一本見ながら適材適所に用いて加工していきます。加工後は、工場で仮組みを行い、最終調整をしてから現場に搬入していきます。



○荒壁土 (土と藁の練り混ぜ状況)

荒壁土は壁において最初に塗り付けられる材料となります。粘性のある土と切り藁(わら)(長さ6~12cm)を混ぜ合わせてつくっていきます。混ぜ合わせた土は最低でも半年以上ねかせる必要があり、その間、合計4回藁を入れ練り返しを行い荒壁土を製作しています。



2. 基礎工事

○基礎工事 (基礎コンクリート、礎石据付完了)

事前に検討した位置に建物の土台となる基礎工事を行います。基礎の上に笏谷石の礎石を据付け、その上に柱を建てていきます。



3. 木工事

○建方

木造や鉄骨造で、基礎の上に、柱や梁(構造材)を組み上げ、屋根を葺けるようにするまでの工事を「建方(たてかた)」と呼びます。

木造で、上棟や棟上(むねあげ)というのと同じ意味です。ここで、棟(むね)というのは、最上段の横架材のことです。あらかじめ、「ほぞ」を掘ったり、継手を加工した多数の木材を、一気に立ち上げていきます。

この工程は、棟梁の掛け声のもと職人が一致団結して動き回らねばならず、寸分の狂いも許されない精度が要求される場面です。



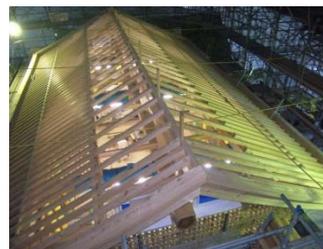
棟門



檜門1階



檜門2階



檜門屋根



土塀

4. 仮設工事

○素屋根

建方が完了すると、荒壁や漆喰塗り、瓦葺きを行います。工事期間中は、「素屋根」と呼ばれる覆いで建物全体を覆い、風雨から保護します。これは、建物が完成するまで荒壁・漆喰塗りや木材を雨風から保護するために設置されるものです。



5. 左官工事

○小舞搔(こまいがき)

壁となる部分に小舞(竹を格子状に藁縄で編んだ下地)を用いること。小舞の工法は全国各地で様々な編み方がありますが、今回の工事では福井県の丹南地域で传承されている編み方を採用しています。



小舞搔



檜門小舞



土塀小舞

○荒壁打ち

製作した荒壁を塗り込んでいく工程。まず、小舞の片面から塗り、ある程度乾燥を待ち反対側から塗ります。反対側からの塗り付けを裏返しといいます。漆喰の施工は鏝(こて)塗りによりますが、荒壁打ちをする場合には、荒壁土の土団子をつくり、手で小舞に打ち付けるように塗り込んでいきます。その後、斑直しの工程は荒壁土が十分に乾燥をした後行います。

工程: 荒壁打ち→斑直し→中塗り→砂漆喰→漆喰



荒壁打



檜門荒壁



土塀荒壁



裏返し



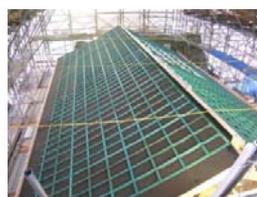
斑直し



斑直し(内部)

6. 屋根工事

○ 事前に瓦の加工場や現場等で仮組みを行い、施工方法や見栄えを検討し本工事で施工しています。屋根瓦として全国的に珍しい石瓦を使用し、桝木で瓦を固定する乾式工法を採用しています。この工法では、湿式工法に比べて屋根全体の重量を軽くできるのが特徴です。



7. その他

○ 県で行っている復元整備募金により記名していただいた野地板と瓦を使用しています。

○ 棟上げまで工事が終了したことに感謝し、無事に建物が完成することを祈願する為「上棟式」を行いました。

